

花と緑の元気とやま推進プラン

花と緑と人が輝く元気とやまの創造

富山県

花と緑の元気とやま推進プラン

花と緑と人が輝く元気とやまの創造



富山県



あいさつ



富山県は、標高 3,000m 級の立山連峰から水深 1,000m を超える富山湾まで、高低差 4,000m のダイナミックな地形を有し、四季折々の花や緑が織り成す美しい自然に恵まれた、全国に誇れるすばらしい県です。私たちは、この花と緑にあふれた美しい環境を県民の大切な財産として後世に引き継いでいかなければなりません。

このため、県では、昭和 48 年から 4 次にわたり、県土緑花計画を策定し、県民の皆さんとともに花と緑の県づくりを進めてきました。特に、第 4 次計画である「富山県花と緑の新世紀プラン」のもとでは、花と緑の指導者数や花壇数が増加するなど、花と緑に彩られた快適な環境づくりが着実に進んできたところです。

しかしながら、「新世紀プラン」を策定してから 12 年が経過し、少子高齢化の進展など、本県を取り巻く社会情勢が大きく変化しています。

また、本年 4 月に「新・元気とやま創造計画」を策定したことなども踏まえ、このたび「花と緑の元気とやま推進プラン」を策定いたしました。

このプランでは、「花と緑と人が輝く元気とやまの創造」を目標に、現下の社会情勢に対応しつつ、花と緑に彩られ、うるおいと安らぎに満ちた県土づくりを一層推進していくこととしています。

特に、緑化活動の担い手が高齢化するなか、県土の緑化を継続的に進めていくためには、新しい担い手の育成が不可欠です。このため、若い世代はもちろん、元気な高齢者の方々の緑化活動への参加をより一層促進してまいります。

また、約 2 年後に迫った北陸新幹線の開業により、多くの方が富山県を訪れることが予想されます。来県された方々に、花と緑にあふれる本県の美しい自然を十分堪能していただき、また訪れたい県として心に深くとどめていただくためにも、駅や観光地などを花で飾り、花と緑あふれる富山県を PR してまいります。

花と緑に包まれた快適な環境づくりを進めるためには、県民の皆さん一人ひとりの緑化活動への積極的な参加と取組みが不可欠です。県民の皆さんの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 24 年 12 月

富山県知事 石井 隆一

花と緑の元気とやま推進プラン

目次

第 1 編	総 論	1
I	計画策定の趣旨	2
II	計画の方針	2
III	計画の目標	2
IV	計画の位置づけ等	3
1	計画の位置づけ	4
2	計画の期間	4
V	施策の体系	4
第 2 編	施策の展開	6
第 1 章	花と緑をすすめる	7
I	花と緑の推進活動	8
1	県民の自主的活動	8
2	花と緑の銀行	10
3	緑花推進県民会議	12
II	花と緑の推進基盤	12
1	基金と募金活動	12
2	花と緑の推進施設	13
3	花と緑の情報交流	14
4	公共事業等の緑化導入	15
III	花と緑の地域計画	16
1	市町村緑花計画等	16
2	花と緑の協定	16
第 2 章	花と緑をはぐくむ	17
I	花と緑の拠点	18
1	花と緑のシンボル	18
2	公園	22
3	学校等	25
4	公共施設	28
5	家庭	29
6	民間施設等	30
II	花と緑のベルト	33



第1編 総論



I 計画策定の趣旨

本県は、立山連峰や黒部峡谷に象徴される雄大な自然や、季節によりさまざまな彩りを見せる森林地帯、豊かな水に潤った緑の田園地帯、花と緑があふれる街、白砂青松の海岸地帯、そして富山湾が一体となって美しい県土を形づくっています。

こうした美しい県土を守り、次の世代に受け継いでいくために、本県は昭和48年の「グリーンプラン」を端緒に、平成12年の「富山県花と緑の新世紀プラン」まで、4次にわたり、県土緑花計画を策定し、緑化を推進してきました。その間計画に盛り込まれた施策を実行、達成し、花と緑の県づくりは着実に進んできました。

平成12年に策定された「富山県花と緑の新世紀プラン」においては、県民と行政が一体となって緑化活動を推進し、この計画に盛り込まれた施策、事業は、概ね順調に進展してきました。この成果として、地域緑化の担い手となるグリーンキーパーの数がほぼ倍増したこと、花壇数が着実に増えてきていること、港湾緑地面積が順調に広がっていることなどが挙げられます。

しかし、「富山県花と緑の新世紀プラン」策定から既に12年が経過し、その間県を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化しました。

例えば少子高齢化が急速に進展しており、緑化活動の担い手の高齢化も顕著になっています。花と緑の指導者(*1)の平均年齢は、平成24年時点で、69.1歳となっており、緑化活動の停滞が懸念されています。

一方で、平成24年に本県と台湾の直行便が開業し、平成26年度末には北陸新幹線の開業が控えています。今後ますます海外、他県との交流が活発化することが予想される中、花と緑によって本県の魅力に磨きをかけていくことが求められています。

このような状況の中で、社会情勢の変化に的確に対応し、花と緑の県づくりを一層推進していくために、新たな県土緑花計画として「花と緑の元氣とやま推進プラン」を策定します。

II 計画の方針

本計画では県民が中心的な役割を担った緑化活動を推進していくことを基本方針とします。

県は、県民が行う緑化活動の資金・技術面での支援、活動が低調な地域の重点的な取組み、緑化活動に顕著な功績がみられる県民の表彰など、県民の緑化活動を促進し、基盤整備を行うことを主たる役割とします。

このように県民と行政が連携して、県民をはじめ本県を訪れる人々にとって魅力ある花と緑の空間をつくっていきます。



(*1)花と緑の指導者

(公財)花と緑の銀行によって地域緑化を委嘱されている頭取・グリーンキーパーを指す。詳細は9ページ参照。

Ⅲ 計画の目標

花と緑の県づくりを進めるためには、県民が花と緑と交流を深めながら、花と緑を大切にしてい
くことが求められます。花と緑、そして人が共に生き、共に輝き、元気な富山県をつくるために、
「花と緑が輝く元気とやまの創造」を目標に、県民が主役の花と緑の県づくりを進めていきます。

花と緑と人が輝く元気とやまの創造

具体的な目標

項目		H.23	H.28	H.33
		実績値	中間値	目標値
○花と緑のグループ等が育成する花壇数	箇所	2,570	2,600	2,700
○道路愛護ボランティア登録団体数	団体	82	85	88
○とやまさくら守の養成人数	人	74	85	100
○花と緑の指導者数	人	2,033	2,100	2,200
○植物公園の箇所数	箇所	8	現状維持	
○植物公園の年間入園者数	人	427,930	438,000	450,000
○港湾緑地面積	ha	59	68	70
○都市公園の面積	ha	1,561	1,580	1,600
○文化財公園の箇所数	箇所	22	23	26
○小中学校の緑地面積	ha	54	現状維持	
○県立学校の緑地面積	ha	55	現状維持	
○公共施設の緑地面積割合	%	20%以上	現状維持	
○工場の緑地面積	ha	582	596	611
○県管理道路の緑化延長	km	234	242	250
○「農地・水・環境」の協定集落数	集落	895	910	930
○漁港緑地面積	ha	10	16	16
○海岸林整備延長	m	5,028	6,178	6,700
○県定公園面積	ha	16,829	現状維持	
○自然公園面積	ha	125,554	現状維持	
○自然環境保全地域面積	ha	624	現状維持	
○植生自然度	%	30	現状維持	
○森林整備面積(累計)	ha	27,302	36,000	45,000
○里山林の整備面積(累計)	ha	1,296	2,600	3,900
○混交林の整備面積(累計)	ha	693	1,500	2,100
○県民参加による森づくりの年間参加延べ人数	人	10,775	12,000	13,000
○保安林の面積	ha	196,438	197,088	197,588
○花き球根栽培面積	ha	100	105	111
○切花・鉢物類栽培面積	ha	63	67	70
○ナチュラルリスト認定数	人	727	780	900
○ジュニアナチュラルリスト認定数	人	243	400	520
○花とみどりの少年団員数	人	3,528	3,600	3,700
○森林浴の森選定箇所数	箇所	60	現状維持	

IV 計画の位置づけ等

1 計画の位置づけ

この計画は、「新・元気とやま創造計画」における部門計画として、花と緑の県づくりの基本的な指針を示します。

2 計画の期間

計画期間は、平成 24 年度から平成 33 年度までの 10 年間とします。



～「緑化」と「緑花」～

樹木や草花を植えて、緑の美しい土地にすることを一般的には「緑化」といいますが、本県独自の計画、組織等については「花と緑の元気とやまの創造」への願いを含めて「緑花」と表現します。

県土緑花計画、富山県緑花推進県民会議、市町村緑花計画

V 施策の体系

「花と緑と人が輝く元気とやまの創造」を推進するため、「花と緑をすすめる」、「花と緑をはぐくむ」、「花と緑にふれあう」の3つの柱をもとに、各種の施策を実行していきます。

